

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者の皆様や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	71人	算数	71人	理科	71人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
------	----	-----	----	-----	----	-----

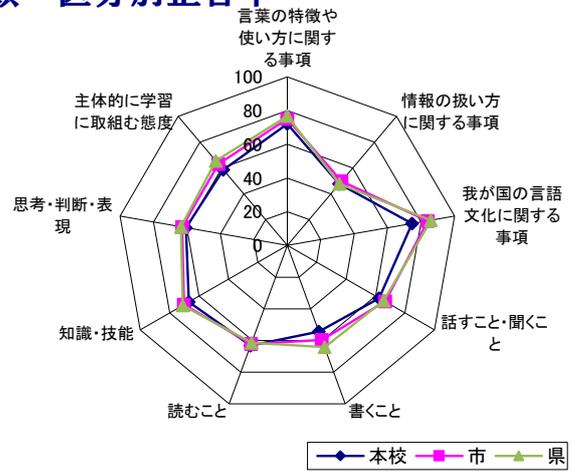
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」や、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.1	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	47.6	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	74.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	62.5	66.5	65.5
	書くこと	54.4	59.6	64.2
	読むこと	63.2	62.2	61.5
観点	知識・技能	67.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	60.6	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	58.7	63.0	65.5



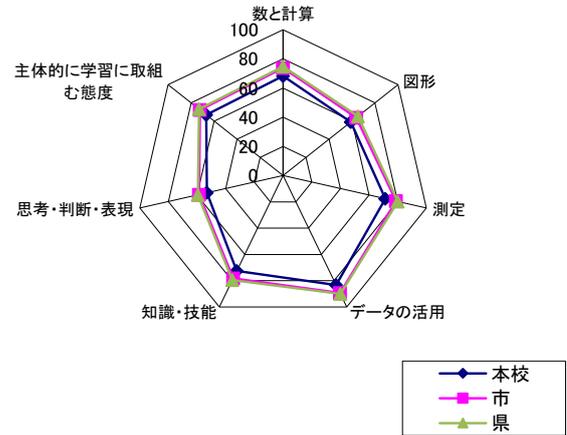
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○ローマ字の表記についての設問の平均正答率は77.8%で県の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●漢字のへんやつくりについての設問の平均正答率は74.6%で県の平均正答率を11ポイント下回っている。</p> <p>●「様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている」についての設問の平均正答率は79.4%で県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢和辞典で部首を調べたり、同じ部首をもつ漢字を集めたりする活動を取り入れるようにする。</p> <p>・様子や行動を表す語句を授業内で取り上げたり、本や辞書を活用する機会を多く設けたりすることで、語彙力を増やせるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している」についての設問の平均正答率は58.7%で県の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●「情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの内容を捉えている」についての設問の平均正答率は31.7%で県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・学習内容によって問題解決的な課題を設定し、児童が自ら関連する情報を集める活動を取り入れ、集めた情報を整理したり分類したりする機会を増やしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○「第3学年に担当されている漢字を正しく読む」についての設問の平均正答率は93.7%で県の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>●「第3学年に担当されている漢字を正しく書く」についての設問の平均正答率は65.1%で県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・漢字の読み・書きに関しては、授業中だけでなく、家庭学習でも繰り返し練習する機会を設け、定着を図る。</p> <p>・既習した漢字の理解が定着するように、文章を漢字に置き換える「文づくり」なども取り入れ、漢字を活用する機会を増やしていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す」についての設問の平均正答率は74.6%で県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」についての設問の平均正答率は71.4%で県の平均正答率をやや下回っている。</p>	<p>・インタビューの活動などを通して、メモをとりながら大事なポイントを押さえて聞く機会を多く設けるようにする。</p> <p>・話し合い活動では、話の中心となることは何かを意識して聞けるよう、課題の与え方を工夫したり、話し合いのポイントを確かめたりできるようにする。</p>
書くこと	<p>●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」についての設問の平均正答率は44.4%で県の平均正答率をやや下回っている。</p>	<p>・自分の考えを文章に書く活動を多く取り入れるとともに、段落構成や文字数などの条件を指定し、正しく書けているかを確認できるようにする。</p>
読むこと	<p>○「叙述を基に段落の内容を捉えている」についての設問の平均正答率は、県の平均を7ポイント上回っている。「文章を読んで感じたことや分かったことを共有している」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を6ポイント上回っている。</p> <p>●「叙述を基に文章の内容を捉えている」についての設問の平均正答率は、県の平均を1.8ポイント下回っている。「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えている」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を4ポイント下回っている。</p>	<p>・説明文では、接続語やキーワードとなる言葉に着目させながら、段落ごとに中心文を抜き出す活動を取り入れるなどして、文章を要約する力を身に付けられるようにする。</p> <p>・物語文では、根拠を明らかにして登場人物の気持ちや場面の様子を捉えるよう促すことで、叙述に即して読み取る力の向上を図れるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	73.8	74.8
	図形	59.0	63.7	65.3
	測定	71.4	78.9	80.1
	データの活用	83.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	72.6	78.3	79.5
	思考・判断・表現	53.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	66.9	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

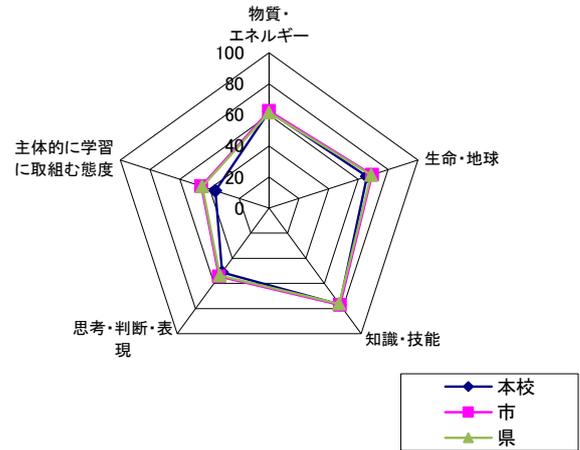
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「1000を37こ集めた数はいくつか」についての設問の平均正答率は92.1%で、県の平均正答率を約9ポイント上回っている。 ●「文章問題を解くために除法の立式をする」についての設問の平均正答率は55.6%で、県の平均正答率を約15ポイント下回っている。	・ネクストマイルドリル等を活用し、計算問題に繰り返し取り組ませ、基礎基本の定着を図る。 ・問題の文章の中で重要な言葉に線を引くなどして、題意に沿った立式ができるようにする。
図形	○「二等辺三角形を作図する」についての設問や「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する」についての設問の平均正答率は市や県とほぼ同じである。 ●「大きさが同じ6個のボールがぴったり入っている箱の横の長さから、ボールの半径を求めることができる」についての設問の平均正答率は54.0%で、県の平均正答率を約10ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習において、様々な図形の性質の理解を図る課題や、それらを活用して考える課題に取り組ませ、図形についての基礎力・応用力を伸ばせるようにする。
測定	○「はかりの目盛りを読み取る」や「身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す」についての設問の平均正答率は県とほぼ同じである。 ●「2つの時刻の間の時間を求める」についての設問の平均正答率は65.1%、「1分=60秒の関係の理解」についての設問の平均正答率は71.4%で、それぞれ県の平均正答率を約12ポイント下回っている。	・「時刻と時間」については、日常生活と結び付けて考えられるように適宜話題にしたり、朝の学習の時間や宿題などで、既習した事項を復習する機会を設けたりすることで、理解の定着を図る。
データの活用	○「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する」についての設問の平均正答率は県とほぼ同じである。 ●わり算の「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する」についての設問の平均正答率は50.8%で、県の平均正答率を約16ポイント下回っている。	・計算問題が正確に解答できるよう、反復練習をする時間を十分に確保できるようにする。 ・わり算では「10のまとまり」で考えたり、様々な問題に応用するために一般化したりするなど、数学的な考え方を身に付けられるような授業の展開を図る。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.2	62.5	61.5
	生命・地球	65.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	76.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	51.2	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	36.1	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「音のせいしつ」の「音による糸のふるえ方」についての設問の平均正答率は93.7%で、県の平均正答率を15.3ポイント上回っている。</p> <p>●「光のせいしつ」についての設問の平均正答率は69.6%で、県の平均正答率を7.8ポイント下回っている。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」の「方位磁針の針として使えるものについて判断し、理由を記述する」についての設問の平均正答率は15.9%で、県の平均正答率を9.2ポイント下回っている。</p> <p>●実験して分かったことを、生活の中の具体的な場面に置き換えて考える問題の正答率が低い傾向が見られる。</p>	<p>・日頃から理由を説明したり、書いたりする学習活動を多く取り入れるようにする。</p> <p>・金属と磁石の性質が混同していると思われるため、それぞれの内容を復習し、知識を確実に定着できるようにする。</p> <p>・実験内容と生活場面を関連させるような課題を設定し、実際に実験を行い、知識の定着を図るとともに理解を深められるようにする。</p>
生命・地球	<p>○「植物の育ち方」の「育つ順と草たけの関係」についての設問の平均正答率は54.0%で、県の平均正答率を10.2ポイント上回っている。</p> <p>●「こん虫の育ち方」の「完全変態と不完全変態」についての設問の平均正答率は54.0%で、県の平均正答率を12.3ポイント下回っている。</p> <p>●「こん虫のからだのつくり」の「昆虫か昆虫ではないか」についての設問の平均正答率は55.6%で、県の平均正答率を15.7ポイント下回っている。</p>	<p>・観察する際に、体のつくりの中で注目する視点を与えることで、観察の技能が向上し、理解が深められるようにする。</p> <p>・教科書の内容の理解を図るとともに、図鑑などでも「完全変態と不完全変態」をする昆虫を調べさせることで様々な昆虫に対して理解が深められるようにする。</p> <p>・昆虫を飼育したり、校庭で昆虫を捕まえたりする経験を多くもたせ、観察する際の見べき視点を示しながら、身近にいる昆虫の生態や昆虫のからだのつくりについて再度注目させることで、知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題に関する設問への肯定的回答は、いずれも市や県を大きく上回っており、学校の宿題に真面目に取り組み、自分の学習へ生かしていこうとする意識が育っている。

○勉強や学校・学級での様子に関するほとんどの設問において、肯定的回答が市や県を大きく上回っている。興味があることを進んで調べ、目的意識をもって話し合い、称賛されることで次への意欲につながっていることが伺える。また、きまりを守り、人の役に立とうとする意識の向上が見られる。

○朝食や睡眠時間など、日常生活に関するほとんどの設問において、肯定的回答が市や県を大きく上回っている。今後も家庭と連携をとり、基本的な生活習慣の定着を図っていく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「人と話すことは楽しい」「自分の行動や発言に自信をもっている」に肯定的に回答した児童の割合が市や県を大きく上回っており、多くの児童がコミュニケーションに自信をもつことができている。引き続き、対話的活動を取り入れた授業を行っていきたい。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人としよう来のことについて話すことがある」などの設問に肯定的な回答をした児童の割合が、市や県の平均を大きく上回っている。引き続き、学校の取組や児童の生活の様子について、学年だよりやホームページで情報の発信をしながら、家庭との連携を図っていく。

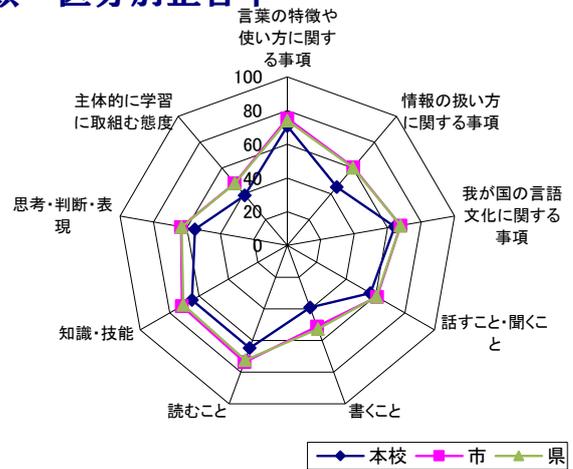
●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動を行っている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問では、肯定的回答が市や県の平均を下回っている。授業中に自分の考えをじっくりまとめたり、学習をふり返って「分かった」とすっきりできたりするよう、振り返りの時間の確保に努めるようにする。

●「平日のテレビやDVD、動画の視聴時間」の設問について、市や県では「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童が最も多い一方、本校は「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童が最も多い。また、「平日のテレビゲーム(携帯やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間」についての設問では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が最も多く、市や県とほぼ同じであるものの、「2時間以上、3時間より少ない」や「4時間以上」と回答した児童は、どちらも市や県の平均を上回っている。テレビやゲームの適切な利用時間や望ましい使用上のルールについて、家庭で確認するように各種便りや懇談会等で促し、家庭への啓発を図れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.8	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	45.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	64.2	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	56.6	61.0	60.7
	書くこと	39.2	51.2	52.8
	読むこと	64.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	64.8	71.7	70.6
	思考・判断・表現	55.2	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	38.9	48.2	48.1



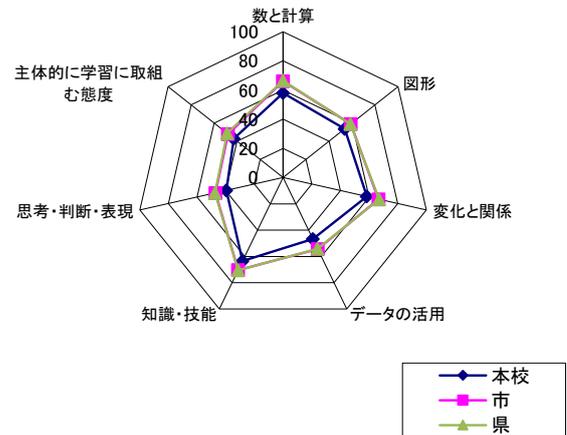
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「漢字を書く」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ●「漢字を読む」についての設問の平均正答率は93.1%で、県の平均正答率より低い。送りがないなどの誤答があったためと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・前学年までの漢字の定着が図られている。読む力をつけるために、今後は送りがない漢字の意味などを理解しながら漢字の学習の工夫を図れるようにする。 ・日頃から授業以外の場面（連絡帳、係からのお知らせ）でも漢字を使うよう意識付けを図るようにする。
情報の扱い方に関する事項	●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を13.3ポイント下回っている。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」についての設問の平均正答率は16.1ポイント、「情報と情報との関係について理解し、理由や事例を挙げながら話している」について設問の平均正答率は、15.1ポイント、県の平均正答率を下回っている。辞典の使い方を正確に理解していないこと、説明的な文章の内容の中心が、「筆者の主張」なのか「事実や事例」なのかなど、何が問われているのかを捉えることが難しかったためと考えられる。	・索引の使い方などの漢字辞典の使い方を再度いねいに説明し、よく理解させるようにする。また、画数、漢字の部首などを意識して書かせるとともに、漢字を学習する際の手段として漢字辞典を活用する場を多く設けるようにする。 ・説明文をよく読ませ、文の特徴を捉えるために、情報の内容を項目ごとに整理したり、根拠となる理由を考えさせたりする。文中のいくつかの情報の関係を理解し、事例や理由などを明らかにできるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●「ことわざを選択する」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を下回っている。前後の文章に合わせたことわざを選ぶ問題であるが、ことわざの意味が分からなかったためと考えられる。	・1人1台端末や辞典、書籍などを用いてことわざの意味を調べたり、それらを使って文章を書いたりするなどして、ことわざの意味に親しみ、身近に取り入れる機会を設けられるようにする。
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことの領域の平均正答率は56.6%で、県や市の平均正答率を下回っている。「司会者の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめている」についての設問では、話をする側と話を聞く側の双方に誤答が見られる。	・話の内容の大切なことを落とさずにメモを取ることや互いの意見を比べながら聞くことなど、話を聞くときのポイントを意識させるようにする。 ・より良い話し合いができるよう、話すときのポイントを明確にして取り組ませるようにする。
書くこと	●「文章を書くこと」は、全体的に県や市の平均正答率を下回っている。2段落構成で書くなど、内容を指定された通りに書けなかったり、「どうした(何をした)」がきちんとした内容で書いていなかったりするための誤答だと思われる。また、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書けなかった設問も見られる。	・文章を短くまとめ、段落ごとに分けるなどの文章構成の見直しをもたせることで、読み手に分かりやすい文章を書けるようにする。 ・自分の考えを書く機会を多く設けるとともに、内容を整理して文章を書くことを意識付けられるようにする。 ・授業の振り返りの時間を活用して、時間内に自分の考えを簡潔にまとめる習慣を身に付けさせるようにする。
読むこと	○物語文の「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。」についての設問の平均正答率は47.2%で県の正答率を2.9ポイント上回っている。 ●物語の登場人物の性格について具体的に想像したり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有したりすることについての誤答が多く見られる。 ●説明文の内容を読み取ることについては、全体的に県や市の平均正答率を下回っている。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えている」についての設問の正答率は66%で、県の正答率を10.6ポイント下回っている。	・物語の登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることはよくできているものの、人物の性格や心情の変化を想像することが苦手である。物語の文をしっかりと読み取れるよう、文の中からキーワードとなる言葉を見つけてさせたり、読み取った心情が場面ごとどのように変化したか着目させたりすることで、登場人物の心情の変化を捉えられるようにする。 ・説明文では、一つの段落というまとまりの中で文章の内容を捉えることが不十分である。この言葉は何を示しているのかなど考えさせたり、指定されたキーワードの前後の文章に着目させたりすることで、文章の内容を正確に捉えられるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.0	66.1	66.4
	図形	53.6	58.9	58.8
	変化と関係	58.5	66.6	67.0
	データの活用	46.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.5	70.4	70.6
	思考・判断・表現	39.6	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

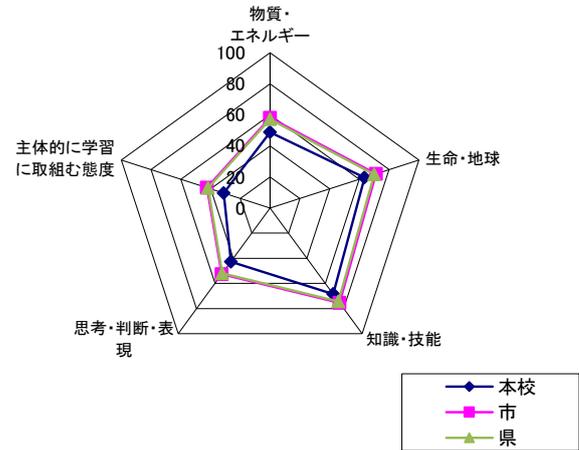
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数のかけ算についての設問の平均正答率は79.2%で、県の平均正答率を3.8ポイント上回っている。</p> <p>●分数の計算についての設問の平均正答率は60.4%で、県の平均正答率より19.7ポイント下回っている。</p> <p>●四則や()の混じった式の計算順序についての設問の平均正答率は50.9%で、県の平均正答率を17.2ポイント下回っている。</p>	<p>・帯分数と真分数の混じる足し算に課題が見られたことから、帯分数、真分数、仮分数の概念や変換について、再度既習事項を確認しながら学習を進め、定着を図れるようにする。</p> <p>・四則や()の混じった式の計算順序の理解に課題が見られたため、簡単な式で計算順序を確認するなど、既習事項を丁寧に振り返りながら指導を進めていく。</p>
図形	<p>○「およその面積を推測する」についての設問の平均正答率は41.5%で、県の平均正答率を4.4ポイント上回っている。</p> <p>●「平行四辺形の作図」についての設問の平均正答率は43.4%で、県の平均正答率を20.1ポイント下回っている。</p>	<p>・図形の領域については、他領域より全体的に正答率が高い傾向が見られる。児童の「できる」意識を育てながら継続的に指導していく。</p> <p>・作図については、作図方法の理解に課題があるのか、定規など用具の操作方法に課題があるのかを明らかにし、双方を踏まえ、丁寧に指導を進めていく。</p>
変化と関係	<p>○「伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率よりやや低いものの、確実に正答している児童が多い。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」についての設問の平均正答率は45.3%で、県の平均正答率より6.4ポイント下回っている。</p> <p>●「2つの数量の関係について、その関係を表す図を選んだり立式したりする」についての設問の平均正答率は、県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・伴って変わる数量については、数の変わり方の法則に注目した指導を継続して行っていく。</p> <p>・□や○で式を表す際には、具体的な場面を設定したり、式に数値を当てはめてみたりするなどして、立式について検証させるようにする。</p> <p>・問題場面を理解できるよう、具体物や図、数直線などを用いて、数量関係や規則性を視覚的に捉えられるようにする。</p>
データの活用	<p>○「二次元表の読み方」についての設問の平均正答率は79.2%で、県の平均正答率を0.6ポイント上回っている。</p> <p>●「2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る」についての設問の平均正答率は45.3%で、県の平均正答率を20.1ポイント下回っている。</p>	<p>・児童自ら二次元表を作成するなどの活動を設定し、より理解を深められるようにする。</p> <p>・折れ線グラフから必要な情報を読み取ることに課題があることから、適宜グラフからの情報を読み取り方を確かめるなど、既習事項を丁寧に確認しながら、学習を進められるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.8	58.1	57.2
	生命・地球	63.5	71.1	70.0
観点	知識・技能	68.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	42.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	31.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「物の体積と温度」の「体積の変わり方を利用したもの」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を3ポイント上回っている。</p> <p>●物質・エネルギー領域についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を9ポイント下回っている。</p> <p>●「電気のはたらき」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を15ポイント下回っている。</p>	<p>・記述ができていない児童が多いため、授業の中で文章を書く機会を多く設け、キーワードを示しながら自分の言葉で書くことができるようにする。</p> <p>・実験に目的をもって取り組めるよう、実験内容・方法を明確にし、自分なりの予想を立ててから実験を行えるようにする。</p> <p>・電池の向きによって電気の流れる方向が変わり、モーターも逆に回る関係性については、復習をした上で実物を動かしながら行い、内容の確実な理解につなげられるようにする。</p>
生命・地球	<p>○「天気の様子と気温」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>●生命・地球領域についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を6.5ポイント下回っている。</p> <p>●「1年間の動物の様子」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を15ポイント下回っている。</p>	<p>・復習をしながら繰り返し問題を解かせ、基礎基本の定着を図れるようにする。</p> <p>・天気の様子や気温についての問題はよく理解できている。今後も日常生活と結び付けて課題について考えさせることで、知識の定着を図れるようにする。</p> <p>・身近な動物の活動や植物の成長と環境との関わりを調べる活動を通して、観察や実験などに関する技能を身に付けられるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざつしはのぞく)」の質問に11冊以上と回答した割合は市や県の割合を大きく上回っている。今後も学校図書館を活用し、読書に親しめる環境を整えられるようにする。

○「次の教科などの学習は、しょう来のために大切だと思いますか」の問いには、国語、社会、算数、理科、総合的な学習の時間における肯定的回答は市や県の割合を上回っている。キャリア教育の充実を図り、各教科へのやる気につなげられるようにする。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は市や県の割合を大きく下回っている。今後も、家庭と連携を図りながら、家庭学習、自主学習の在り方を見直していく。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答は市や県の割合を大きく下回っている。児童の知的好奇心を掻き立てられるよう、授業や宿題の在り方を工夫し、改善を図っていく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答は市や県の割合を下回っている。今後、小グループにおける意見交換など話し合い活動の充実と学力の向上が図れるよう、指導方法の工夫や改善を図っていく。

●「次の教科などの学習は好きですか」の問いには、国語、社会、算数、理科、総合的な学習の時間における肯定的回答は市や県の割合を大きく下回っている。一人一人が興味関心をもって取り組み、その教科の楽しさが十分に味わえるような授業を展開できるよう、指導方法等の工夫や改善を図っていく。

宇都宮市立岡本北小学校 (第4・5学年共通)

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた基本的な学習態度の徹底及び創意工夫した家庭学習の習慣化	「学習の約束」を活用して基本的な学習態度の定着を図るとともに、「めあて」「ま」とめ」「ふりかえり」の掲示物を授業で活用し、宇都宮モデルを意識した授業づくりを進めている。 「家庭学習のすすめ・手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の確保と家庭学習の充実を図れるようにしている。	4,5年生ともに、基本的な学習内容が十分に身に付いているとは言えない。「授業の中で目標がしめされている」への肯定的回答について、「はい」と答えた児童が県や市の平均を上回る一方、「どちらかといえばいいえ」と回答した児童は県・市の平均を上回っている。授業のねらいを捉えられないまま学習に取り組んでいる児童が一定数いる状況があると考えられる。 「自分で計画を立てて勉強している」や「家で授業の復習をしている」、「学校の宿題はやりたくなる内容だ」等の設問について、県・市の平均を上回っている項目があるものの、学年間のばらつきが大きい。児童の実態に即した家庭学習の与え方、学習意欲を向上させる取組の在り方に課題が見られる。
言語活動の一層の充実により、対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらいの達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 自分の思いや考えを安心して表出できるような学級集団を醸成するとともに、振り返りの時間を確保し、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「授業で発表する機会が与えられている」や、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」への肯定的回答は、学年間のばらつきが大きく、県や市の平均を上回っているものもあれば、下回っているものもある。児童の実態に即した効果的な言語活動の工夫、安心感のある学級集団の醸成が必要であると考えられる。 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っている」の肯定的回答は県・市の平均を下回っている。
一人1台端末を用いてICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	ICT支援員と協力し、タブレット端末の機能を生かした授業を構成したり、行事等での活用を進めたりしている。また、家庭や児童との連絡ツールとしての利用も進めている。 AIDリルの活用方法を検討・実践し、情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」等への肯定的回答は、学年間のばらつきが大きく、県・市の平均を大きく下回っているものもある。タブレット端末の調べ学習のツールとしての利用方法や、図書利用の在り方について、課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基本的な学習内容の定着と個別の支援、家庭学習の在り方の工夫	どの子にも「分かる」「できる」実感を生む学習指導・支援の実践と、家庭学習の工夫と習慣化	児童一人一人の到達度や理解度をもとに、授業形態や授業の展開、個別の支援の工夫を行うとともに、それぞれの学級の様子について学年間の共通理解を図り、学級、学年全体の学力向上へ繋げられるようにする。 家庭学習を①(個に応じた)必須の課題、②自主学習の二本立てとする。①で基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる学びの調整力と、一人一人の学習意欲の向上を図れるようにする。